



木島病院

(平成28年8月4日訪問)
平均在院日数496.6日(平成27年度)

積極的な取り組みなど

- 意見箱の意見への回答は、各病棟のデイルームにあるファイルに綴じられていた。
- 嗜好調査の回答が掲示されていた。「月1回以上新メニューを取り入れます」「好評の野菜ジュースを月2回にします」「刺身は2月3月に予定しています」「4月11月は茶碗蒸しを出します」等、細かい要望に応えようとされていることが伝わってきた。

前回の訪問(平成22年5月)から改善されていた点

- 前回訪問時、朝食について、患者の希望について検討していただきたいと伝えた。今回は、食事について不満等は聞かれなかった。
- 前回訪問時、第4病棟では介助の必要な患者の入浴時間中、脱衣所入口が全開になっていて、廊下から脱衣所の様子が丸見えだった。今

回は第1病棟の入浴時間と重なったが、脱衣所の前は扉が閉まり、スクリーンが置かれて、入浴中の患者への対応のために、その界隈で職員が待機していた。

- 前回訪問時、各病棟での聞き取りから、PSWは金銭管理を担当する人だと思っている患者が多いようだった。今回は、「PSWに退院の相談にのってもらっている」との声があったので、PSWが退院についての相談にのってくれる存在ということは知られてきているようだった。
- 前回訪問時、OT室で、「お茶はあるけど、誰が使ったコップかわからないから飲まない」との声があったことについて、今回は、平成28年5月9日より文化系のOTプログラム時は、ペットボトルの持ち込みや、お茶の提供が禁止されたとの掲示があった。これは回し飲みをする人が増えたことや、衛生面と多飲水の患者を考慮したとの説明だった。卓球・園芸・ストレッチなどの運動系のOTプログラムでは、飲用可能のままであった。

病院全体

人権擁護委員会・意見箱

意見箱の意見は、意見箱管理運営委員会のメンバーが月1回、回収して委員会で検討される。委員会は1ヶ月に1回開催され、回答される。

金銭管理

病院の金銭管理費は、閉鎖病棟では1日当たり206円(生活保護患者は124円)、開放病棟では113円(生活保護患者は82円)。閉鎖病棟では自己管理はできない。1病棟以外では殆どの患者は病院に預けているようで、伝票で買物をしている患者が多い。病棟内に鍵付きロッカー(利

用料1日52円)があった。9病棟では全員が病院管理で、鍵付きロッカーの利用者はいなかった。「貸して」等と言われると断れない患者や、持っているだけ使ってしまう患者がいるので、病院で管理しているとの説明があった。

入浴

入浴は週3回。

面会

各病棟に面会室があった。面会時間は平日も休日も10時～17時。



院内喫茶・売店

外来の待合室は、テーブルや椅子がたくさんあった。隣接する売店で買ったものを、待合室で数名の患者が話しながら食べていた。院内喫茶の営業時間は10時～16時。定休日は月・金曜日。院外の人も自由に利用できる。

退院支援

退院支援の一環として、病院から少し離れたところに、公営住宅等を利用したグループホームが3ヶ所（定員約25名）ある。訪問看護や就労支援B型事業所もある。

病棟の様子

本館はデイルーム、廊下、病室等、全体にゆったりとしていた。東館・西館は本館に比べると、デイルーム、廊下や病室のベッドの間隔は狭かった。トイレは清潔にされ、気になる臭い等はなかった。

電話

公衆電話はデイルームにあり、左右に仕切りと椅子が設置されていた。携帯電話は病棟内では使用できず、外出時のみ使用できる。

病室・隔離室

病室は4人部屋と6人部屋が中心だった。ベッド周りにはカーテンがあり、床頭台があった。隔離室・外から施錠のできる個室の窓には、ほぼ全面に網目状の金属版がついていたため、外からの光があまり入らなかった。訪問時は多くが使用中だった。トイレは窓側にあり、手前に衝立があった。水洗は室外と室内から切り替えられる。第1病棟の隔離室のモニターカメラは、トイレが映る角度のため、改善を検討中とのことだった。

第1病棟 閉鎖 男女 急性期治療 50床

デイルームでは病棟内の個別OTが行われており、多くの患者は塗り絵・ドリルなどをしていた。また、交替で卓球をする患者もいた。

患者の声

「入院4ヶ月。家族との喧嘩が原因で入院した。退院予定について、家族の都合により変更があった。この日に家に帰れるか未定。7月中は家族への通話も禁止されていた。これから家族と話し合って、無理なら実家へ帰ることも考える」「入院して1週間。明後日、日帰りで家に帰る。家族に会いたい」「お金は管理料がかかるから預けていない」「週1回伝票で買物する」「退院のことについてPSWとの話し合いはない」「入院3週間。この病院に入院するのは今回が初めて。入院時は退院まで1ヶ月と言われた」

第2病棟 閉鎖 男女 認知症 60床

15～20年入院している患者が最も多くいる。訪問時、デイルームには椅子に座っている患者と車椅子の患者が半々くらいいた。

第4病棟 閉鎖 女性 精神療養 60床

認知症と統合失調症の患者が多い。患者の年齢層は20～70代で、10年以上入院している患者もいる。退院に向けてOTやSSTに力を入れて取り組んでいる。1ヶ月で1～3名の患者が退院する。

訪問時は、患者同士や患者と看護職員が話をしていることも多かった。おやつの時間になると、患者は決められた席でおやつを食べていた。全ての病室の扉が開いていた。殆どのベッド周りはカーテンが引かれていた。

患者の声

「看護師は優しいが退院したい。大阪市の自分の住んでいた区の職員に電話して退院したいと言った。行政の人が今度訪問に来てくれる。前も来てくれた」「入院の目安は、説明を受けたし紙ももらった」「洗濯は有料で病院にしてもらっている」「主治医を信頼しているので、医師の指示に従って、調子によって入退院をしている」「おやつは週1回の売店での買物時に買い、詰所に預けて毎日のおやつに出してもらおう」「20年以上入院している」「黙って1人で外へ出ていくので、医療保護入院になった」「服は売店で買う」「入浴は洗面器を置いて順番取りをする。他の病棟では病室ごとに順番がまわってきた」「メガネはスタッフに眼科に連れて行ってもらう。処方箋を書いてもらい、病棟に来る眼鏡屋の見本からフレームを選んで作った」「薬はベッドの所へ持って来てくれる。看護師は患者が飲むのを確認してから次へ配る」

第6病棟 閉鎖 男性 精神療養 60床

デイルームでは患者がビデオを見ていた。

患者の声

「入院して3年。もうすぐこの病院のもつ施設へ移る予定。早く移って自分で生活することが楽しみ。今日、市役所の人と打ち合わせをした。退院については6ヶ月程かかった」「薬の量が多いので減らして欲しいと看護職員に言ってゴタゴタして外出禁止になった。直接医者に言った方が良かった」「お金は預けている。買物は週1回職員と売店に行く。以前短気を起こして入院、1ヶ月拘束され辛かった。学んだ。社会復帰して、育った東北へ戻りたい」「入院6～7年。退院はもういい。もう30年近く入院している」

第7病棟 開放 女性 精神療養 48床

開放病棟だが、訪問時は殆どの患者が病棟にいた。広い方のデイルームでテレビがついている以外は、病棟内は全体にとっても静かだった。

デイルームが2ヶ所に分かれているが、多くの患者は詰所前におり、奥の部屋は無人だった。詰所前には、たくさんの週刊誌や文庫本の他に複数のタリも置かれていて、数名の患者が自由に見ていた。

患者の声

「1日300円ずつ渡される」「私は主治医と退院の話をしているが、ずっと入院している患者がたくさんいる。不安になる」



第8病棟 開放 男性 精神療養 48床

病室でカーテンを開けて横になっている患者が多いようで、病棟内はとても静かでデイルームには人気がなかった。

患者の声

「単独外出もない。同伴外出もできない。敷地内外出だけ」「伝票で買物する」「お金は自己管理している。2週間で1万円」

第9病棟 開放 女性 精神一般 46床

20年位入院している患者もいる。退院できない理由は、患者自身に退院意欲がないことと、退院後の環境の変化への対応が難しいことが考えられるとの説明だった。退院支援は計画的に実施しており、毎月1～2名の患者が退院する。先月はグループホームに退院した患者がいた。地域移行支援を利用している患者はいない。

消灯時間は21:30。病室・デイルーム・洗面所の照明が消える。眠れない患者は詰所でスタッフと話したり、詰所横のベンチに腰掛けたりするらしい。

開放病棟だが敷地内のみしか外出できない患者が8名おり、院外外出する時は、その都度主治医に申請をして許可を出してもらっているとのこと。

患者の声

「入院して23年。主治医は6人くらい変わった。主治医も人それぞれで、話をよく聞いてくれたり、そうじゃなかったり」「お小遣いは1週間に1,000円とジュース代1,200円。この金額はPSWと相談して決まった」「2ヶ月に1度、預けているお金を出してもらって買物に行く」「前に施設にいて、ここに入院になった。入院して10年、1病棟、4病棟、9病棟と病棟が変わった。前は幻聴や被害妄想があったけど今はない。退院したいが、きょうだいが反対している」

検討していただきたい事項

寝たきりの患者が廊下から丸見えだったことについて

第9病棟では、詰所前の4人部屋(寝たきりの患者3名、うち1名は胃瘻)では、ベッド周りのカーテンは巻き上げられていて、廊下から中の様子が丸見えだった。(病院：通常の場合、カーテンを開放させていただいています。その患者自身がカーテンを引っ張るなどの破損行為、また、ある患者においては、奇声を発するため他の患者からの危害回避のため、常に観察を必要とするためです。ただし、処置やオムツ交換などの場合は、外から見えないように最大限にプライバシーへの配慮を行っています。)

金銭の自己管理と明細の発行

病院全体として金銭を自己管理している患者は少ないようだった。(病院：今後、検討していきたいと考えます。また、収支明細の発行は、ご希望があれば、事務所以外の各病棟内におきましても、随時発行できます。患者への周知に関し、工夫していきたいと思えます。)

退院に希望の持てる情報提供や支援を

治療計画書や退院の目途について、説明を受けて知っている患者と「聞いたことがない」と言う患者がいた。そして、退院について医師やPSWに相談している患者もいたが、一方で「2日間、隔離だった。入院時、医者や他の職員も十分に話を聞いたり説明してくれなかった」「『退院したい』と言うと、主治医は『あなた自身は退院するために何かやってるんですか？OTにちゃんと行ってるんですか？』と言う。OTは足がむずむずしてじっとしてられないから行けない。PSWに退院の相談をすると『主治医がOKと言わない』と言う。主治医にもPSWにも退院の相談をしてもだめ。薬の説明もしてくれない」等との声があった。

(1) 入院中の患者に対して、病院側が、診察・面談・ミーティング等を通して、また掲示・文書等の配布などにより、積極的に情報を提供していくことを検討していただきたい。

(2) 上記のことや退院の目処、現時点の目標を含む治療方針・治療計画・薬について情報を求めたり、質問をしてもいいということを、全ての患者にきちんと説明することを徹底していただきたい。

(3) 病院内外の様々な資源を活用して退院支援を進めることを検討していただきたい。

(病院：対象者の理解度に合わせ説明を行ったり、声掛けの仕方を工夫し、相手の話を引き出す、環境や利用者の背景を理解し、必要な支援につなげていくことはPSW業務として重要な役割であることは認識しております。各種退院支援委員会等を通じ、他機関との連携、病院内外の情報提供にも工夫を行い、個別状況に応じた退院支援について、今後も積極的に対応していきたいと考えています。)

職員の接遇について

患者から「言葉遣いの悪い職員がいる」との声があった。(病院：人権擁護委員会を中心とした研修を年に2回実施し、また各部署において毎月のグループミーティングを行い、患者の人権擁護や接遇等への教育活動を積極的に行っているが、現状の課題に対して、今後もよりいっそう取り組んでいきたい。)

院外外出の機会

患者から、「ずっと、単独も同伴も院外への外出はできない。敷地内の外出だけ」等、院外へ外出したいとの声が聞かれた。(病院：患者個々に対して働きかけを積極的に行っていききたい。)

公衆電話の設置場所(第9病棟)

患者から、公衆電話がテレビと自動販売機の横にあるため「電話をかけるときにテレビの音や人通りが気になる」との声があった。(病院：保健所の指導では、ナースステーションから離れた場所であることを基本としているため、現状の病棟構造から考えると、テレビの音が入るものの、一番人通りが少ない現状の場所が妥当であると考えます。)

デイルームのテーブルに貼られたテープについて(第4病棟)

テーブルには全員分の患者の名前がテープで貼られ、名前の他、コーヒーマシンの場所、その患者の飲物に関する情報もテープで貼られていた。(病院：保健所からの指導として結核等の感染症者が発生した場合の追跡調査として、



感染の可能性が高い食事における接触者を明確にするよう言われています。本来は、誰がどこに座ったのかを毎日の記録でよかったのですが、座席の取り合いや患者間でのトラブルが頻発したため、患者からの要望によりテープにて氏名を貼り座席を決めています。現状としては、最善の方法かと考えております。ただし、飲み物についてまで表示することについては、プライバシーへの配慮が足らなかったと考え、表示をはずします。)

精神保健福祉資料より（平成 27.6.30 時点）

435 名の入院者のうち統合失調症群が 282 名 (65%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 78 名 (18%)、気分障害が 26 名 (6%)。入院形態は任意入院 228 名 (52%)、医療保護入院 206 名 (47%)、措置入院 1 名 (0.2%)。在院期間は 1 年未満が 105 名 (24%)、1 年以上 5 年未満の患者が 166 名 (38%)、5 年以上 10 年未満の患者が 84 名 (19%)、10 年以上 20 年未満が 58 名 (13%)、20 年以上が 22 名 (5%)。

ほぼは 大阪府内の精神科病床のある
全病院への訪問活動の報告です。



クリック

病院訪問活動から考える
権利擁護

この本の使い方はいろいろ

- 「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
- 「病院訪問活動の視点を知りたい」
- 「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
- 「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」

認定 NPO
大阪
精神医療
人権センター
30周年

A4 サイズ / 210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言



療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～ 4,000 円／2 名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別
年会費

賛助会員

障害者 1,000 円
個人 3,000 円
団体 5,000 円

特別協力会員
& 寄付
大募集

特別協力会員

A 10,000 円
B 30,000 円
C 50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付 2 か月に 1 回 年間 6 冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号 2 病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等を知ることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1 か月に 1 回から 2 回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNS による情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



寄付特典

ご寄付をしていただく場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

税額控除とは？

寄付金 1 万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担 6,800 円

寄付金 5 万円の時

所得税額 -19,200 円

実質負担 30,800 円

※確定申告は最寄りの税務署にご相談ください。

※大阪府（堺市を除く）に在住の方は、地方税も控除されます。

※控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

10,000 円のご寄付で、2～3 名の面会が可能になります。

郵便払込	口座番号 00960-3-27152 加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805
現金	講演会会場・事務所にて
クレジットカード	ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター
<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。

クリック

認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp